

滋賀の文化情報誌
デュエット
Duet

2020 春 vol.134

特集

近江八幡市立資料館

郷土資料館・歴史民俗資料館・旧西川家住宅

新撰 淡海木間撰 79

家訓「先義後利」 西川利右衛門

INFORMATION STATION 催し案内 2020 冬

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

特集

近江八幡市立資料館

郷土資料館・歴史民俗資料館・旧西川家住宅



旧西川家住宅の茶室に飾られた「享保鑑」(10ページ催し案内参照)。手前の畳敷きが仏間で、障子の向こうが前栽

豊臣秀吉の甥、秀次によって八幡山城の城下町として建設された近江八幡。その面影を残し、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている新町通りの一角に、近江八幡市立資料館があります。

郷土資料館、歴史民俗資料館、旧西川家住宅の3つから成る同館で、館の運営と資料の管理を担当しておられるお二人にお話を聞きました。

■近江八幡市立資料館

住 所 近江八幡市新町二丁目22

連絡先 TEL 0748 (32) 7048 FAX 0748 (32) 7051

休 館 日 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始。ただし、春・秋の観光シーズンは休館日なしで開館(要事前確認)

入 館 料 〔3館共通入館券〕一般500円、小・中学生250円

駐 車 場 市営小幡観光駐車場をご利用ください(有料)

JR 琵琶湖線「近江八幡駅」下車、近江鉄道バス「長命寺」行で、「小幡町資料館前」下車、徒歩約2分／名神「竜王IC」か「八日市IC」で下り、近江八幡市街方面に



宝永3年(1706)築の旧西川家住宅



7年前から指定管理によって運営、半世紀近い歴史を持つ公立資料館の先駆け

まちの方々には「自分たちがつくった」資料館という愛着

——近江八幡市立資料館は、開館が昭和49年（1974）3月とのもので、滋賀県下の市町村立資料館としては第1号だったそうですね。昭和40年代後半の近江八幡は青年会議所を中心に八幡堀の保存修景計画がまとめられた時期で、町の歴史・文化の保存に関心が集まっていたのでしょうか。

烏野 初代館長の江南洋^{なみのう}さんは地元の方で、ご自身で熱心に資料集めなどをなさって開館にこぎつけられたという経緯があり、町内の方々も「この資料館は、自分たちがつ

くった」という思いが強いですね。

資料館で在動していた時、地元の方から「烏野君、将来的には資料館の館長になるつもりか」と言われて、「ひょっとしたら、そうなるかもしれませんね」と答えたら、「資料館の館長は、順繰りであるものじゃないねんで、つまり「なるべく人がならないといけない」と言われたのを覚えてます。その後に県内にできた資料館や博物館の方が設備などでは充実しているかもしれませんが、他館とはちよつと違う愛着を持たれているんです。

——それらが指定管理に

なったのはいつからですか。

前坂 いまから7年前、平成25年（2013）です。

その頃から自治体の公的施設の運営を指定管理者制度^{※2}によって選定された団体に代行させる動きが全国的に広がって。

烏野 近江八幡市もいろいろな施設を指定管理に出す中で、この資料館もその対象になりました。

前坂 指定管理者の契約期間が3年なんです。「かんでんジョイナス」は4年前に選ばれて3年が過ぎて、再び公募に参加させていただいて、いま2期目の1年

※1 江南洋著『資料館三十年の歩み』には、展示ケースは「廃業された店舗の陳列ケースを求めて」利用し、「正にお手製のどさくさのオープンであった」とある。

※2 指定管理者制度 平成15年（2003）に地方自治法の改正により、公共的な団体などに限られていた公の施設の管理運営を、民間の事業者や団体にも認めるとした制度。

が終わったところです。

——ホールや体育館などはよく聞きますが、博物館や美術館でも増えているのですか。

前坂 そうですね。うちの会社の場合、指定管理業務ではないものの、大阪歴史博物館や大阪市立科学館、京都のひと・まち交流館、兵庫県立美術館などの業務委託として、受付案内や券売業務に関与しています。——重要文化財に指定されている旧西川家住宅などを任せる場合に、何か資格のようなものは必要ないのですか。

烏野 もともと一括で公開していた施設なので、何か建物自体に問題があった場合はすぐ市が駆けつけるというかたちで対応しています。あくまで運営の部分をお任せしています。

前坂 問題は、入館者はわれわれを管理運営事業者だとは思っておられないので、展示品などについてどんどん質問をしてもらえることです。そのたびに市史編纂室に電話をするわけにはいかないので、一定の知識を持って対応させていただいています。職員には前の指定管理会社の時から、あるいはもっと前の市が運営していた時から継続の方も何人かいますし。

——運営面で、市がタッチすることは。

烏野 例えば、雛人形^{ひな}の展示があったら、それらの所蔵品を蔵出しするのは、われわれの仕事になります。**前坂** 台帳を見て、これとこれを貸してほしいとお願ひしてやっています。



近江八幡市立資料館
統括マネージャー

前坂雅春さん

まえさか・まさはる／1953年、富山県生まれ。関西電力を定年後、同グループの「かんでんジョイナス」に入社。東近江市在住。「町内の人には「館長さん」と声をかけられますが、対外的には統括マネージャーで通しています」



近江八幡市文化観光課 主査
(市史編纂室)

烏野茂治さん

からすの・しげじ／1969年、大阪府生まれ。専門職員採用により2002年より市史編纂室勤務。2006・07年に資料館勤務。「もともとは農村の文書類を専門にしていたので、商業史はまだまだ勉強中です」

——前坂さんが運営面で注意なさっていることは何かありますか。

前坂 いろいろなイベントをする時には館のある新町二丁目にお住まいの皆さんにお知らせするようにしています。地元の皆さんと協働した取り組みで歴史の町並を守っていくために良好な関係を保っていく努力をしています。

例えば、八幡の町には江戸時代から「背割り」と呼ばれる下水溝があつて……これ説明が長くなりますよ。館の展示にもありますが、八幡の町には古式水道が設けてありました。全国で6番目にできたものだそうです。

烏野 八幡の町の東側は砂利層で愛知川の伏流水が地下に流れているのですが、この館の場所もふくむ西側（野洲川寄り）は粘土層で、井戸を掘っても金気があつて、飲み水に適さなかつたんです。そのため西側は親井戸（元井戸ともいう）を掘って、そこから道沿いの地下に竹筒を通して各家に水を送るという仕組みが、江戸時代の初期から作られていました。八幡商業高校のある辺りに親井戸があります。

前坂 それが上水道だとすると、南北に走る通りに並行して真ん中に「背割り」と呼ばれる下水溝が掘られています。新町二丁目の場合は、奇数月の第3日曜日に朝からその背割りの掃除をするんです。いまは別に汚い水が流れているわけではないんですが、落ち葉などがたまるので。当館の職員も町内の人といっしょにその作業をしています。まちづくり協議会が主催する八幡堀の清掃にも参加していますし。

——この新町通りでは、もう住んでおられない家が多いのではないですか。

前坂 この広さなら、都会だと50〜100

軒になるんですけど、住人がいるのは現在9軒です。若い方はお寺のご住職と、もう一軒あるだけ。あとは私と同年輩の方々ばかりです。

ですから、当館のような存在が貴重なんです。お手伝いすると、非常に喜んでいただけます。町内会費も払って、毎年、町内の新年会にも参加しています。お酒を飲むのが私だけなのがつらいんですが（笑）。

また、この通りには街灯がなくて夜には真っ暗になるんですね。資料館の敷地内だけで、3つの街灯があるので、街灯が切れると「消えています。早くつけてください」とすぐに苦情が来ます。そうしたことによるコミュニケーションも、すごく大事ななと思うようになりました。

秀次・家康へと受け継がれた八幡町の特権

——3つの建物のうち、まず「郷土資料館」の展示を案内していただけますか。

前坂 もとは八幡警察署の庁舎です。
烏野 さらにさかのぼると西村太郎右衛門邸跡ということになります。江戸初期に安南（今のベトナム）まで出かけて、日本が鎖国したため帰国できなくなった人物です。ですから、正しく言うと、分家筋が受け継いだ西村太郎右衛門家の一統の屋敷地と伝わります。

そこに明治19年（1886）に八幡警察署が開設されて、当時のいわゆる擬洋風の建築でした。瓦屋根ですが、古い写真を見ると、かなり洋風の雰囲気です。正面に立てられた石の門柱がまだ中庭に残されています。

その後、昭和28年（1953）にヴォーリズ建築事務所が改築をしたので、ドアや

※3 古式水道 江戸時代初期に町民によって設けられた上水道で、親井戸から地下に竹管を通して取り井戸に給水した。類似の施設が、大津・彦根・長浜にも存在した。



↑八幡町の古式水道と背割り（『近江八幡の歴史』第4巻に掲載の図「八幡町周辺の地質」を加工）

窓などの外装にヴォーリズ建築の意匠が残されています。

前坂 4年前の時点で、冷暖房があるのは事務所だけで、寒かつたです。一昨年（2018）の4月にリニューアルして、ようやく展示室もふくめた建物全体に冷暖房がつけました。壁などは一部ひび割れを直したぐらいで、ほぼ昭和28年改修時のままですが。

烏野 改修した際の発見として、断熱材として床下に藁が入っていたことがわかりました。昭和28年当時としては、防寒・防音などのことも考えた建物ではあったんです。

——他にもおもしろい工夫はありますか？

烏野 （ガラッと開けて）これが上下スライド式の窓です。下の棧が斜めになっています。水がたまらないようにしてあります。当時としては珍しいものです。これを見て

もろうために、室内にも設置してあります。隠してある内部の構造が見えるようになってるんですよ。

—— 続いて2階の展示室です。 ——

烏野 この展示室では、八幡の町に関わる重要な文書などを中心に展示しています。

例えば、これは八幡山城主豊臣秀次が出した「八幡山下町中掟書」(重要文化財、ただし展示物は複製)。安土から八幡に城下が移動しましたが、織田信長の楽市という制度は引き継がれます。商人を必ず立ち寄らせるといふ決まりのもとで、安土の場合は陸路だけでしたが、秀次の掟書には「近辺の商舟を相留め」とあるので、八幡堀が運河として機能していたことを証明する資料でもあります。

あまり知られていませんが、八幡山城主は2代までいて、それが京極高次でした。関ヶ原の合戦の頃には大津城主になっていたわけですが、高次が八幡山城下に出した「八幡町中定條々」という文書で注目のたいのは「八幡町中」という宛名があることです。おそらくこれが「八幡町」という言葉が出てくる最初です。つまり、徳川幕府ができる前の段階ですでに「八幡町」という認識がなされていたという意味では非常に重要な資料です。

つづいて、こちらに展示しているのは「八

◀展示室内に設けられた上下スライド式の窓

幡町絵図」、色分けして描かれた地図です。八幡堀を流れる水は琵琶湖とつながっている、少ないければ船が通れませんか。水位に絶えず注意しなければいけなかったもので、絵図にも描かれているように、水中に立てた「水尾木」という3本の棒によって水位を確認していました。ですから、八幡の人々は瀬田川の川浚えにも反対しています。

—— なるほど。立場が変わればですね。 ——

烏野 そして、徳川家康に関する文書もあります。江戸時代の初めから八幡の町は「諸役免除」とされたのが町民のステータスでもありました。それは、信長—秀次(「秀吉」)—家康と、代々受け継がれたのだと記しているものです。実際、家康は特権を明文化していませんが、八幡では自分たちの権利を保証するものとして、文書をずっと管理していました。

そんな八幡の町も、時代が下ると何度か諸役をかけられそうになります。その時に「徳川家康朱印状」という文書を示して切り抜けたんですね。これには最初に「禁制」とあって「放火をしてはいけない」といろいろな決まりが記されていますが、「諸役免除」とは書いていないんです。そこで、八幡の町衆は、「創意工夫」をするわけです(笑)。当時の八幡町の代官の手代が「権現様(家康)の朱印状を見たい」と言いつて持ち帰っており、騒動の中で「乱失 仕

り候(紛失してしまった)」というストーリーを創作して、展示してある由緒書が作成されます。

幕府の側もただ騙されていたわけではなかったでしょうから、これで通るとするのは、八幡の財力の大ききゆえに、領主層が味方についたからだと思います。それが本当に厳しくなったのが文政5年(1822)に起こった「御朱印騒動」と称される事件の時です。いよいよ諸役が課せられそうになるというので、町年寄(町のトップ層)らが江戸にまで出向きました。最終的に維持できたのは当時の領主だった旗本・朽木氏の本家筋にあたる福知山藩主の動きも大きいとされ、このあたりは「近江八幡の歴史」第7巻「通史Ⅱ 八幡山城から幕末まで」に記しています。町衆たちはちょうど徳川家の菩提寺である上野・寛永寺にお参りした後決着がついたので「権現様に守られた」と喜びました。

※4 瀬田川の川浚え 台風や長雨による洪水を避けるために、琵琶湖から水が流れ出る瀬田川の川底にたまった土砂を取り除くこと。

※5 諸役免除 領主によって課される年貢以外の負担を免除されること。

※6 歴史民俗資料館整備事業 廃棄が急増していた民具を収納する施設を整備するため、昭和45年(1970)から平成5年(1993)まで国が補助した事業。滋賀県では10館が建設された。

商家のゲストハウスが警察署長の官舎に

—— 郷土資料館の北隣が「歴史民俗資料館」で、古い民家を利用したものです。 ——

前坂 江戸末期の建築です。森五郎兵衛さんという商家のお宅が、新町通りをはさんで向かいにあって、こちらは、その「控え宅」、いまで言うゲストハウスみたいなものだったそうです。大事なお客さんをここ

に招いて商談をしたり、お祝い事をした建物でした。それが、明治19年(1886)に隣に警察署ができたため、警察署長の官舎として使われるようになったんです。それを改修して、昭和54年(1979)に歴史民俗資料館として開館しました。

—— 歴史民俗資料館整備事業を用いた県内

そこで小学生を相手に説明する時はさつき話に出た丁稚さんのことを話すと一番いいですね。小学4年生から6年生ぐら

※7 **引札** 江戸時代から大正にかけて、商店が配った広告ちらし。

ていますね。

烏野 もとは消防団の消防倉庫だった跡地に、新設の共用スペースを作り、「コワーキングスペース」と呼んでいます。



庭の三階蔵は、住宅よりも20年余り古い天和年間(1681～83)築 ↑

旧西川家住宅

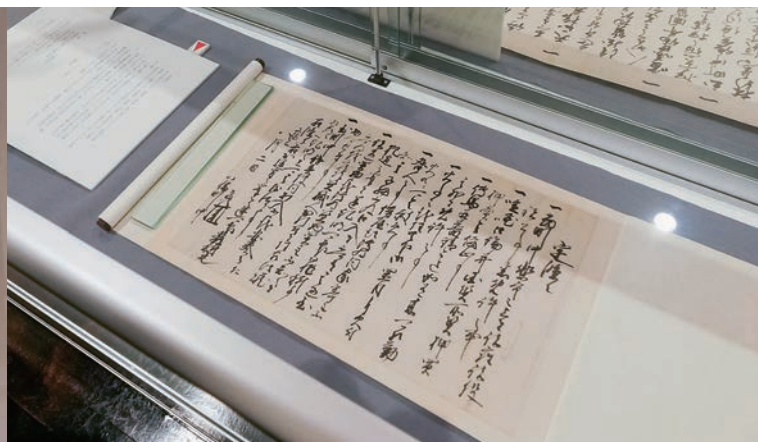
↑ 家印「井筒大」の暖簾がかかる玄関土間。屋号は「大文字屋」



明治38年（1905）当時の引札や暦が残されていた算筒の裏側 ↑

歴史民俗資料館

↑ 臼、杵、徳利、梅干し壺、田楽箱などさまざまな生活用具が並ぶ



八幡の絵図に描かれた町割は、ほぼ同じ形でそのまま保たれている ↑

郷土資料館

↑ 2代目八幡山城主京極高次が「八幡町中」に出した掟書（複製）

いの子供が働いていたという、「えーっ」と驚きます。それから、あの跳ね上げ戸をやってみせると「ほーっ」って（笑）。

――松の剪定などは、専門の業者の方に依頼しているのですか。

前坂 「見越しの松」は絶対に枯らすことはできません。ですから剪定には気を使っています。当然、金額も高くつきませんが、枯らすと大失態です。その点、庭のサツキやツツジは、私が剪定しても問題になりません（笑）。

――その辺も、市からの委託料の範囲内で賄わなければならないわけですね。

前坂 もちろんです。お任せですが、松の

山形県からの来館者に教わった「オミ漬け」

――来館者は、館を目指してくるというより、古い町並を見るために訪れて、ついでに立ち寄られる場合が多いのでしょうか。

前坂 そうです。厳しい話で申し訳ないですが、この4年間を振り返ってみますと、入館者は1年に2割程度減ってきています。近江八幡市全体への観光客数は逆に増えているのですが。

――2015年にオープンした「ラコリーナ近江八幡」は県内で観光客数を誇る人気スポットになっていますが、逆に古い町並を歩く人は減っているのでしょうか。

前坂 町並を歩く人はほとんど変わっていませんが、これまでコンスタントに来ていただいていた他府県の学校関係が徐々に減ってきています。歴史探訪ツアーの団体はほぼ同数が維持されています。減少要因の多くは、団体ツアーの来館者が減ってきているのに加え、ツアーの滞在時間が1時間程度なので、日牟禮八幡宮まで行って買い物をすると、入館の時間がなくなってしまうあたりにあるのかな。

◀商家の前栽から伸びる「見越しの松」



剪定のような場合はケチってはダメで、それなりの業者さんとお値段を交渉して。

入館者はどの地域からが多いのですか。

前坂 名古屋や岐阜からがとて多いですね。また関西からよりも関東からの方が多いです。例えば長浜市で1泊、次は天津市に1泊というスケジュールで、移動のルートで彦根城、近江八幡の町並を見学する。昼食は「鮎家の郷」（野洲市）でとるというような。

他には、大学で建築を教えておられる先生に引率されてゼミの学生さんたちが来て、建物をじっくり見学なさることもあります。私たちも、梁などに関する先生の説明をいっしょに聞かせていただいて、「あつ、なるほど」と教えられますよ。

鳥野 朝鮮通信使関係で八幡に来てくださる方もけっこうあります。学校などでも平和学習のテーマになっているようです。

前坂 毎年夏休みに韓国の釜山から高校生が20〜30名、訪れていますね。

鳥野 滋賀県は大阪・京都から立ち寄りやすいというのがありますし、「朝鮮人街道」という名前が残っている道が館の前を通っ

※8 紅花 キク科の越年草。赤色の花を乾かし、口紅や染料の材料とした。日本では山形が主産地。

ている資料館というのは珍しいですから。前坂 山形県からの来館者があって、「私どもの所に、オミ漬け（近江漬け）」という近江商人由来の漬物がある」と教わったこともあります。郷土食として伝わってるんだそうです。

鳥野 八幡商人は山形にも行っているの、向こうの方は、滋賀県に親近感をお持ちなんです。私も当館にいた頃、山形県の方がふらっと来館なさって、わざわざお土産をくださって、「山形にとって近江は……」というお話をなさったことがあります。

山形の産物という紅花ですか？

鳥野 そうです。紅花を京都に運んで、京都の髪飾りなどの工芸品、山形は寒いから上方（大坂）の綿製品を北前船で運ぶという商いをしていました。そのため、観光面での協力ができないか」と言っていたこともあります。

前坂 そうした経験から、来館者の方と話すことはものすごく大事だと感じます。なるべく、お声掛けをして会話ができるようにしているんですが、おもしろいですが、とても勉強になります。

鳥野 私が市史編集という仕事の中で感じたのも、近江八幡という地域だけで収まらない歴史があるということでした。近江商人は、ここに本家がありながら江戸や北海道にも店がありましたから。空間意識としても、近江八幡の人々は、福島や山形、それから先ほどの話にも出てきた江戸はそれほど遠くないという意識を持っていたのではないかなと思います。

――お忙しいところ興味深いお話をありがとうございました。（2020・1・23）

家訓「先義後利」

西川利右衛門

近江八幡市文化観光課

烏野茂治

現在近江商人の屋敷として公開している重要文化財旧西川家住宅は、西川利右衛門家の本宅です。同家は、畳表や蚊帳を扱った八幡商人のひとつで、江戸日本橋や大坂、京都などに店を持ちました。現在、旧西川家住宅の床の間に1幅の掛軸が掛けられています。同家を本家とする大文字屋西川家一統に伝わる「先義後利」と呼ばれる家訓が記されています。

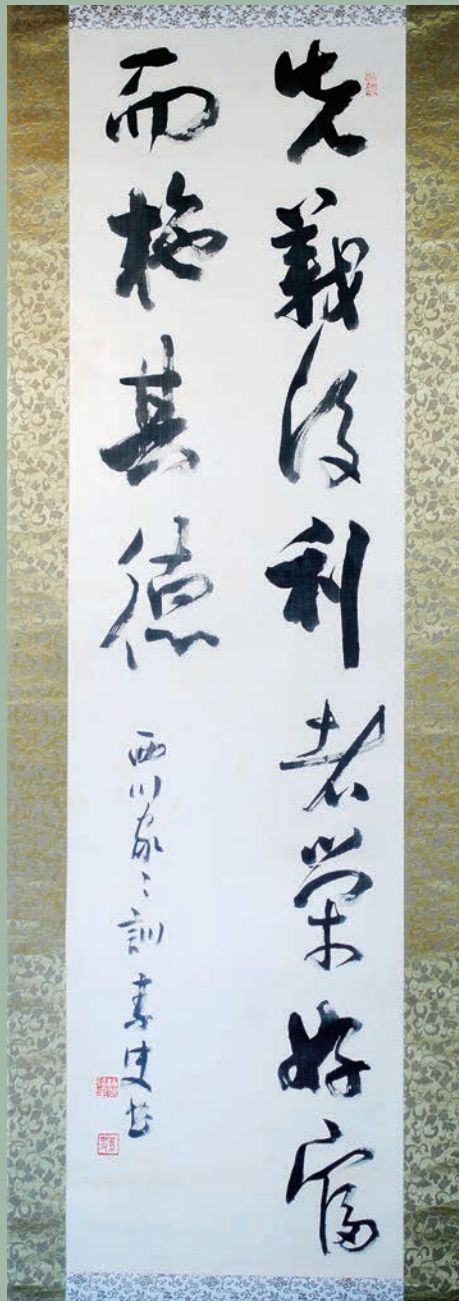
「先義後利者榮／好富而施其徳」

「義を先にし、利を後にするは榮え、好く富みて其の徳を施せ」と読み、その内容は（先ず利益を求めるのではなく）人として、道義をわきまえた行いをしていれば、利益は後からついてきて、榮える。よく富み、その富に見合った徳すなわち善行を（社会に）施せというものです。家訓の前半部分は、中国の儒学者、荀子の言葉で、現在でも老舗と呼ばれる企業の経営方針として代々伝えられているところもいくつかあります。例えば、百貨店の老

舗大丸は、初代当主である下村彦右衛門によって、元文元年（1736）よりこの言葉を事業の根本理念として定めています。

一方、後半部分は漢詩などからの引用は確認できないことから、大文字屋一統によるオリジナルの文言ではないかと考えられます。その文面から「其の徳を施せ」といういわゆる社会貢献を謳う部分に目にいきがちではあります。例えば日野の商人中井源左衛門の「金持一枚起請文」にある「始末と吝き」と同様、「好く富みて」部分も含め利益に対する支出や消費への理念も含まれていると考えられます。

大文字屋一統では、奉公人が別家するとき、当主より「お墨付き」と呼ばれる支度金と家訓が書かれた掛軸を与えられます。「お墨付き」については、その後当主預かりとなり、別家には利息が与えられますが、掛軸は別家が大切に保管し、その理念は継承していくのです。



定員：20名程度(当日先着順、要入館料)

お問い合わせ先：TEL 077 (522) 2111

(滋賀県立近代美術館)

重要文化財「大津百艘船関係資料」指定記念企画展

江戸時代の琵琶湖水運

—大津百艘船の航跡—

開催中～4月12日(日)

大津市歴史博物館



大津百艘船万留帳(重要文化財
江戸時代 大津市歴史博物館蔵)

大津百艘船は、江戸時代の琵琶湖水運の中心的役割を担った船仲間です。現在まで残り伝えられた古文書・歴史資料などの関係史料を一堂に展示して、大津百艘船の「航跡」を紹介します。

入館料：一般600円、高大生300円、小中生200円

休館日：月曜日

■企画展開連講座

3月14日(土) 午後2時～3時30分

「江戸時代の石山寺の即位開帳」

講師：高埜利彦氏(学習院大学名誉教授)

3月28日(土) 午後2時～3時30分

「大津百艘船関係資料にみる琵琶湖舟運」

講師：東 幸代氏(滋賀県立大学人間文化学部教授)

4月4日(土) 午後2時～3時30分

「江戸時代の石山寺と旅行者—紀行文と古文書にみる—」

講師：青柳周一氏(滋賀大学経済学部教授)

4月11日(土) 午後2時～3時30分

「幕末における京都・大津間の物資流通」

講師：樋爪 修氏(元大津市歴史博物館館長)

有料、要事前申込、詳しくは館まで

■展示解説(ギャラリートーク)

3月11日(水)・25日(水)・4月8日(水)

午後2時～(30分程度)

講師：高橋大樹(大津市歴史博物館学芸員)

お問い合わせ先：TEL 077 (521) 2100

ひな人形の風展

開催中～3月15日(日)

世界風博物館東近江大風会館

おひな 男雛、女雛、三
人官女、五人囃子
が描かれた風10点
がひとつになり
段飾りを表した
連風など、風愛好
家が製作した雛
人形が描かれた
風31点を展示。

会場では、歩いて掲げる簡単な風作りを子ども対象に無料で行っています。

入館料：一般300円、小中生150円

休館日：水曜日

お問い合わせ先：TEL 0748 (23) 0081



滋賀県立近代美術館 県内移動展示事業

かわらミュージアム企画展

土から生まれた

開催中～3月22日(日)

かわらミュージアム



澤田真一〈無題〉
(滋賀県立近代美術館蔵)

滋賀県立近代美術館の改装休館中の県内出張展示第4弾として近江八幡で開催。今回は、県内の福祉施設における造形活動によって生まれた陶芸作品から、国内外で高い評価を受ける澤田真一氏の作品と滋賀県立近江学園の生徒たちの作品を紹介します。

入館料：一般300円、小中生200円

休館日：月曜日(月曜が祝祭日の場合はその翌日)

■トークイベント

「近江学園の造形活動について」

3月8日(日) 午後1時～3時30分

話し手：下林徹也氏(近江学園窯業科主任)

佐々木信一氏(近江学園窯業科副主任)

会場：かわらミュージアム研修室・企画展示室
(近江八幡市多賀町738-2)

日野ひなまつり紀行

開催中～3月8日(日)

近江日野商人館(旧山中兵右衛門邸)

近江日野商人ふるさと館(旧山中正吉邸)

日野まちかど感応館(旧正野薬店・観光協会事務所)

各家および商店街など

蒲生氏の城下町であり、近江日野商人の故郷でもある日野町。懐かしさを感じる町並みや商家、商店街で、江戸時代から現代にいたるお雛様や創作人形が飾られます。日野独特の風景でもある棧敷窓が並ぶそんな町中を、華やかな雛人形と出会いながら散策してください。

入館料：近江日野商人館〔大人300円、小中生120円〕、近江日野商人ふるさと館〔大人300円、小中生120円 ※商人館・ふるさと館両方入館の場合は2館で400円〕、日野まちかど感応館〔無料〕

休館日：3館とも期間中は無休

お問い合わせ先：TEL 0748 (52) 6577(日野観光協会)

近江八幡節句人形めぐり

開催中～3月29日(日)

近江八幡市立資料館・旧伴家住宅ほか



近江八幡市立資料館展示

旧西川家住宅や旧伴家住宅では、商家に伝わった江戸期から昭和初期にかけての節句人形をはじめ、台所道具や筆筒などのミニチュア小道具を展示します。

また、旧城下町エリアの約30店舗では、各家に伝わる大切な人形をショーケースなどに展示します。

入館料：資料館のみ入館料が必要

休館日：月曜日、祝日の翌日

お問い合わせ先：TEL 0748 (32) 7003
(近江八幡観光物産協会)



生涯現役・生涯学習・生涯シルバー シルバー人材センターの魅力

平田正男 著

B6判並製本 総212頁 非売品

問合先 甲賀市水口町春日521 (著者)

公益社団法人滋賀県シルバー人材センター連合会会長を務める著者が、シルバー人材センターとは何か、その役割と課題、今後目指すべき方向をわかりやすく案内。(2020.1.1刊)



メモリーII 人生つながり

伴 綾子 著

四六判並製本 総192頁 非売品

問合先 Dan's Studio BAN TEL0748 (23) 1174

21歳で自費出版した『メモリー』から十一年、現在ストリートダンス認定校を運営する著者が、動いていないと落下してしまう「つながり」にたとえる日々を綴る。(2020.1.12刊)

忘れぬうちに伝えたい 湖北の伝統食・地産食【決定版】

湖北町食事文化研究会 編
B5変形並製本 総168頁 頒価1650円

問合先 長浜市湖北町伊部585 (肥田)

わかりやすいレシピ本として大好評を博した増補版の発行から8年余り、料理の追加や作り方の見直しをおこなった決定版。(2020.1.31刊)



いのちを大切に

「生きている命」と「生かされている命」

川嵐順次郎 著

A5判並製本 総132頁 非売品

問合先 彦根市小泉町798 (著者)

滋賀県・彦根市で同和教育や人権教育に取り組んできた著者が、昨今の現状を憂い、「いのち」の教育の必要性を問う。(2020.2.1刊)



募集 第23回 日本自費出版文化賞

募集期間 2019年11月1日～2020年3月31日

応募資格 制作費用の全額または一部を著者（個人・団体）が負担し、日本国内で2010年以降に出版され、主として日本語で書かれた一般書で、製本された著書が対象。

募集部門 ①地域文化部門 ②個人誌部門 ③小説部門
④エッセー部門 ⑤詩歌部門
⑥研究・評論部門 ⑦グラフィック部門

応募方法 応募用紙に必要事項を明記のうえ、応募著書を1冊添えて文化賞事務局（下記）までお送りください。
応募手数料：2000円

お申し込み・お問い合わせ先

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
ニッケイビル7F (社)日本グラフィックサービス工業会内
NPO法人 日本自費出版ネットワーク 日本自費出版文化賞事務局
TEL 03 (5623) 5411

発表 2020年9月上旬

賞金・賞品 大賞：賞状／賞金20万円
部門賞：賞状／賞金5万円
特別賞：賞状／記念品 入選：賞状

休館日：月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424

企画展 守山空襲 —戦場となった滋賀県—

開催中～5月31日(日)

滋賀県平和祈念館

昭和20年7月30日午後、守山は空母ハンコックから発進した戦闘機によって空襲を受けました。守山駅を発車する列車を狙った機銃掃射によって、犠牲となった人の数は確認されているだけで死者11名、負傷者22名。空襲を体験した方々の証言やモノ資料などによってその実態を紹介します。

入館料：無料

休館日：月曜日・火曜日（祝日にあたる場合は開館）

■探訪 陸軍八日市飛行場と八日市の街並み
3月20日(祝)

場所：東近江市内

参加料：無料（要事前申込）

お問い合わせ先：TEL 0749 (46) 0300

滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県立安土城考古博物館連携企画展 安土・桃山時代の近江展 —琵琶湖文化館収蔵品を中心に—

開催中～4月5日(日)

滋賀県立安土城考古博物館



草津市指定文化財
絵湯桶（草津市観音寺蔵・秋草時
滋賀県立琵琶湖文化館寄託）

滋賀県内の社寺から滋賀県立琵琶湖文化館に寄託されている作品および同館が所蔵する作品の中から、近江出身の巨匠・海北友松の絵画をはじめとする安土・桃山時代の華やかな美意識に満ちた優品を紹介します。あわせて草津市・観音寺（芦浦観音寺）に伝来する「芦浦観音寺文書」から、信長・秀吉らの戦国大名文書を展示します。

入館料：大人600円、高大生360円、小中生無料



琵琶湖博物館ブックレット10 琵琶湖のまわりの昆虫 地域の人びとと探る

八尋克郎 著

A5判並製本 総128頁 1500円＋税

種数が多い昆虫の研究には、地域の人たちの協力が欠かせない。トンボ、チョウ、オサムシなど、さまざまな昆虫の分布や生態に関わる興味深い話題とともに虫好き人間の活動を紹介。

琵琶湖博物館ブックレット11 ナマズの世界へようこそ マナマズ・イワトコ・タニガワ

前畑政善・田畑諒一 著

A5判並製本 総128頁 1500円＋税

マナズ（一般的なナマズ）、イワトコナマズ、タニガワナマズそれぞれの特徴や生態、日本産ナマズ属の起源・歴史などを、フィールド調査でのさまざまなエピソードとともに紹介。



シニアパッカー世界遺産の旅 イスファハンからイスタンブール4000キロ

山崎喜世雄・村上哲夫 著

B5判並製本 総176頁 1800円＋税

山あり谷あり砂漠あり、人懐っこい笑顔とうまい食事、たまには武装兵士の統もある。60歳代男性コンビがイランとトルコの世界遺産を訪ね歩いた。それぞれの視点で記した紀行エッセイ。



増補版 少年の眼に映った満州 鞍山・七嶺子村の出来事

手島清美 著

A5判上製本 総248頁 2000円＋税

引揚げまでの満州生活を回想した初版に、同書を読んだ同級生との書簡のやり取り、2019年5月に家族とともに再訪した鞍山・七嶺子村紀行の2章分を新たに収録。



近江学 第12号

成安造形大学附属近江学研究所 編

AB判並製本 総96頁 1800円＋税

特集は「川とはぐくむ」。瀬田川、安曇川、草津川、天野川など、琵琶湖を取り囲む河川に秘められた歴史を探索。人文系の知見と琵琶湖周辺の観測データを組み合わせ、新たな解釈と表現を生み出す研究の成果の一部を紹介。

淡海文庫 64 琵琶湖治水に命をかけた 藤本太郎兵衛三代

石田弘子 著

B6判並製本 総160頁 1500円＋税

琵琶湖から流れ出る川は瀬田川のみ。大雨になれば湖水はあふれ、人々は水害に悩まされた。江戸後期、湖辺農民の苦しみを救うべく幕府に川浚えを願い出た藤本太郎兵衛三代の歴史。



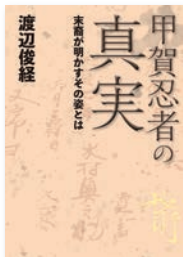
甲賀忍者の真実

末裔が明かすその姿とは

渡辺俊経 著

A5判並製本 総164頁 2400円＋税

江戸時代、百姓身分として甲賀で暮らしながら、有事の際に尾張藩の忍びを務めた先祖たち。近年の忍者ブームの史実無視を憂える忍者の末裔が、甲賀忍者の真実の姿を明らかにする。



よみがえる港・塩津 北国と京をつないだ琵琶湖の重要港

水野章二 編著

四六判並製本 総248頁 2200円＋税

現存最古の起請文木札をはじめとする大量の出土遺構・遺物をもとに、北国と京を行き来するヒトとモノで賑わった琵琶湖北端の港の姿とその変遷を各分野の研究者が探る。



表紙写真 近江八幡市立資料館 郷土資料館の正面（上）と、左手に歴史民俗資料館と旧西川家住宅が並ぶ新町通り（下）

編集後記 取材の前の打ち合わせで近江八幡市立資料館にうかがった際、統括マネージャーの前坂さんは、「この八幡の町並がなぜ残されたか、わかりますか?」と、豊田秀次による八幡山城築城以来の歴史を語り始め、実際の取材でござ経歴をうかがうまで、根っからの地元の方だと勘違いしていました。誌面では割愛していますが、資料館の秀次コーナーでは熱弁が止まりません。㊥

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先